

ベーシックインカムの実現可能性

氏名：木本遼（経済学部 3 年）

指導教員：北尾早霧先生

2016 年にスイスでベーシックインカムの導入を巡って国民投票が行われたことは記憶に新しい。また、昨年度の衆議院総選挙でも希望の党がベーシックインカムの導入を政策の一つに掲げている。いずれの選挙でもベーシックインカムの導入は実現しなかったが、こと日本においては現在持続性が疑問視されている社会保障制度の代替案としてベーシックインカムの導入によって予測される経済的な影響は研究されるべきであると考えます。

よって、本論文では現状の社会保障制度の問題点を指摘したのち、原田(2015)にて提案されたベーシックインカムの導入案を財源的な面から検討を行った。そして、ベーシックインカムの導入によって予測される労働供給への影響を世代重複モデルによって分析を行った。

分析の結果、不確実性や人口動態の変化のないモデルではベーシックインカムの導入による労働供給は、ベーシックインカムの給付率と税率の関係によって決まることが分かった。